

令和4年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる
「共同研究班」 研究報告書

令和6年1月31日現在

研究課題名	スラブ・ユーラシア地域と世界経済		
担当者	氏名		所属機関・職
	1	田畑伸一郎	スラブ・ユーラシア研究センター・教授
班員	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	志田 仁完	西南学院大学経済学部・准教授	地域経済開発
	研究テーマ		
	ロシア極東の地域開発における特区制度の役割		
班員	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	日臺 健雄	和光大学経済経営学部・教授	現代ロシア政治経済，ソ連経済史
	研究テーマ		
	戦時下ロシアの戦費調達と財政ルール：国民福祉基金の機能を中心に		
班員	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	松澤 祐介	西武文理大学サービス経営学部・教授	中東欧諸国（特にチェコ，スロヴァキア）の金融政策
	研究テーマ		
	中東欧の「小国開放経済」としての「生存戦略」：チェコ，スロヴァキアの事例		
班員	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	山脇 大	日本銀行	環境・気候変動政策論
	研究テーマ		
	ロシア経済のグリーン化		

研究成果の概要

ロシアのウクライナ侵攻により大きく変化したスラブ・ユーラシア地域と世界の経済に関して、共同研究を進めた。班員は、それぞれの研究テーマに関して、ロシアのウクライナ侵攻とそれに起因する経済制裁がどのような影響を及ぼしているのか、中長期的にはどのような影響が出

てくるのかについて分析を進めた。ロシア経済全体に関わる議論に加えて、ロシア極東や中東欧の経済についても議論を深めることができた。なお、本共同研究班の活動は、北極域研究加速プロジェクト (ArCS II) 社会文化課題のサブ課題「エネルギー資源開発と地域経済」とも連動して進められた。

山脇は、2022年6月12日に「中央銀行のグリーン化：ロシアに焦点を当てて」と題する報告を、担当者の田畑が組織した比較経済体制学会自由論題パネルで行った（函館大学）。日臺は、2022年7月23日に「ロシアの外貨準備とソブリン・ウェルス・ファンド：ウクライナ侵攻前後の動向を中心に」と題する報告を、担当者の田畑がSRCで主宰したワークショップ「ウクライナ侵攻後の世界経済：ロシア・中国・インド（2）」で行った。松澤は、2023年3月27日に「EU加盟20年目のスロバキア経済」と題する報告をSRC特別セミナーで行った。

主な発表論文等（雑誌論文，学会発表，図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

【雑誌論文】

- ・志田仁完「新聞記事を通してみた日本の対ロシア経済制裁に関する関心について」『ERINA REPORT (PLUS)』第165号，pp. 38-44，2022年（謝辞有り）
- ・志田仁完「制裁下ロシア企業の生存時間分析」『比較経済研究』第60巻第1号，2023年，pp. 13-28（謝辞有り）
- ・日臺健雄「プーチン政権下ロシアにおける財政ルールについて」『和光経済』56巻2号，pp. 41-50，2023年（謝辞無し）

【学会発表】

- ・志田仁完「ロシアの空間的再編成と地域経済の成長：クラスノダール地方の中規模地域に注目して」，比較経済体制学会第62回全国大会，2022年6月11日（謝辞無し）
- ・田畑伸一郎「世界的な脱炭素・脱ロシアのロシア経済発展への影響」比較経済体制学会第62回全国大会，2022年6月12日（謝辞無し）
- ・山脇大「中央銀行のグリーン化：ロシアに焦点を当てて」比較経済体制学会第62回全国大会，2022年6月12日（謝辞無し）
- ・日臺健雄「対ウクライナ戦争下ロシアにおける国家資本主義：国民福祉基金の機能を中心に」経済理論学会第70回大会，2022年10月8日（謝辞無し）
- ・松澤祐介「近年の欧州の旅客鉄道輸送の変容：新型コロナウイルス感染症流行拡大の影響と日本との比較を踏まえて」日本EU学会第43回研究大会，2022年11月6日（謝辞無し）
- ・松澤祐介「COVID-19，ウクライナ戦争と中欧諸国の金融市場・金融政策」比較経済体制学会第63回全国大会，2023年6月3日（謝辞無し）
- ・山脇大「ロシアにおける環境投資と情報開示に関する一考察」ロシア・東欧学会研究大会（共通論題：スラブ・ユーラシアの環境を考える），2023年11月5日（謝辞無し）

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

なし

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。